＜ 別 紙 ＞

九州地域戦略会議 第２３回夏季セミナー「全体スケジュール」

会場：唐 津 シーサイドホテル
メルキュール唐津佐賀リゾート

日 時		行 事	場 所
８月４日（火）	14:00～14:15	開会式	「シーサイド」１階 虹Ａ
	14:15～15:15	基調講演 株式会社ＮＨＫエンタープライズ エグゼクティブ・プロデューサー 堅達 京子 氏 テーマ 「サーキュラーエコノミーへの挑戦 ～エネルギー危機時代の脱プラスチックと脱炭素～」	「シーサイド」１階 虹Ａ
	15:30～18:00	**第１分科会** **「持続可能な社会構築のための感染症対策とワンヘルス」**	**「メルキュール」２階 ＭＨ３**
		第２分科会 「アンコンシャス・バイアスの気づきから職場・地域を考える」	「メルキュール」２階 ＭＨ１
		第３分科会 「農林水産物の輸出拡大に向けて」	「メルキュール」９階 ＭＲ４
		第４分科会 「人手不足時代の企業経営 ～中小企業は AI とどう向き合うべきか～」	「シーサイド」１階 虹Ｂ
８月５日（水）	9:00～10:30	全体会議	「シーサイド」１階 虹Ａ

※セミナー前後には、世界海洋プラスチックプランニングセンター（PLA PLA）視察を実施（希望者のみ）

九州地域戦略会議　第２３回夏季セミナー「分科会」趣旨・論点

第１分科会　　「持続可能な社会構築のための感染症対策とワンヘルス」

趣　旨

新型コロナウイルス感染症は、県域を越えて感染が拡大し、九州・山口のコロナ禍における死亡者数は１万人を超え、日常生活における行動制限や飲食店、集客施設等の営業時間の短縮、イベント等の中止などにより、令和２年度の域内総生産は前年度から約２兆円の減少となり、地域経済にも大きな影響を及ぼした。

こうした経験等を踏まえ、九州地域戦略会議では、経済活動への影響を最小限に抑えるため、九州・山口が一体となった官民連携の取組として、感染症の拡大防止と社会経済活動の両立の実現を目指すこととしている。

本分科会では、持続可能な社会構築を目指す観点から、パンデミック時の感染症対策や、人と動物の健康、環境の健全性を一体的に守るワンヘルスについての理解を深める。

論　点
① パンデミック時における社会経済活動の維持継続
② ワンヘルス・アプローチによる技術開発と社会実装
③ ワンヘルスの視点を踏まえた地域の取組評価とその活用

第２分科会　「アンコンシャス・バイアスの気づきから職場・地域を考える」

趣　旨

価値観は人それぞれ多様であり、一人ひとりがありたい自分を思い描きながら、活き活きと暮らしていける環境づくりが求められている。一方で、「固定的な性別役割分担意識」や「アンコンシャス・バイアス」は、自らが希望する生き方をあきらめてしまう要因の一つにもなっている。本分科会では、女性も男性も活き活きと働き、暮らしていける社会の実現に向けて、「固定的な性別役割分担意識」や「アンコンシャス・バイアス」について考え、それらがもたらす課題への気づきを深めることを目的とする。

論　点
① 若年女性の居心地の悪さにつながっていそうなこと
② 職場や地域で行動を変えていくためにできること

第３分科会　　「農林水産物の輸出拡大に向けて」

趣　旨

九州地域は農林水産業が主要な産業であり、農業産出額は全国の約２割を占めるなど、国内食料供給の重要な拠点となっている。

人口減少等により国内市場が縮小する中、農林水産物の更なる輸出拡大を図るためには、米国の相互関税措置や中東情勢など海外市場の不確実性が高まる状況において、既存の輸出先国に加え、新たな販路開拓など輸出先国の多角化を図ることが重要である。

輸出拡大に向けて、九州地域が一つの経済圏として連携し、様々な課題解決に向けて取り組むことの意義や、官民一体での輸出戦略の方向性について共有し、実現性のある取組につなげる必要がある。

論　点

① 輸出拡大に向けた生産体制の確立・強化
- 輸出に意欲的に取り組む生産者の確保・育成
- 輸入規制等に対応できる産地の育成

② 海外市場においてニーズのある農産物の生産拡大
- マーケティングや販促活動を通じたニーズ等の把握と生産者等へのフィードバック

③ 輸出先国の多角化に向けた新たな国・地域等における販路開拓

第４分科会　　「人手不足時代の企業経営　～中小企業は AI とどう向き合うべきか～」

趣　旨

近年、生成 AI をはじめとする人工知能技術は急速な進展を遂げており、産業構造や企業活動のあり方に大きな変革をもたらしている。特に、人手不足が深刻化する中小企業においては、AI の活用による生産性向上や業務効率化、さらには新たな付加価値創出が、持続的な成長と競争力強化を図るうえで重要な経営課題となっている。

一方で、多くの中小企業では、専門人材の不足や導入コストへの懸念に加え、「何から取り組めばよいのかわからない」「自社ではどのような効果が得られるのか見えにくい」といった課題から、AI 導入・活用が十分に進んでいない現状も見受けられる。

本分科会では、AI を活用した先進的な経営改革や業務改善に取り組む企業、DX・AI 活用を支援する企業による事例を共有するとともに、人手不足時代における企業経営のあり方を見据えながら、「AI を経営戦略にどのように位置づけ、効果的な導入・活用につなげていくべきか」について議論を深める。

論　点

① 人手不足時代における AI 活用の経営効果－経営戦略における位置づけや、組織・現場に生じる変化など

② 中小企業が AI 活用に踏み出す際の課題と対応策－導入に対する不安や制約、社内理解の醸成、外部支援機関の活用など

③ AI 活用を経営課題とし推進するための判断軸－優先順位（どこから）と進め方（いつ・どこまで）など